

第2部 ボランティア・市民活動の推進

I 令和5年度事業総括

第1 課題及び基本方針への対応

令和5年度は、市民活動支援センター（以下、センターという）にとって、新たに策定した「2023～2027 市民活動支援センター中長期運営方針」（以下、「中長期運営方針」という）の開始初年度であるとともに、第11期運営委員会がスタートした年でした。

今期の運営委員会は4人の市民公募を含む計18人の委員で構成し、これまで以上に市民に開かれたセンター運営を進めることができました。委員会では様々な地域課題について話し合い、その課題に対してセンターがどのように寄与できるかについての議論を重ねました。その一つの成果として、「えんがわフェスタ」において外国にルーツのある市民との交流を図ることができました。また、令和4年度に引き続き、市内の「居場所探訪」を通じて、家庭でも職場でもない第三の居場所の大切さについての理解を深めました。

第2 重点項目の総括

1 中長期運営方針の5本の柱に対応したセンター運営

- ①「市民の地域参加の推進」については、「えんがわフェスタ」や「まち活フェスタ」等のイベントや、「出前講座」、「サマーボランティア」などのプログラムを通じて、市民が地域に参加するためのきっかけを作ってきました。
- ②「パートナーシップの強化」については、センターはもとより各ブランチにおいて、日常的な相談場面や事業を通じて、ボランティア、NPO、学校、行政等様々な機関と連携しながら、協働を推進しました。
- ③「えんがわファンドによる寄付文化の醸成」については、引き続き、「ちょうふチャリティーウォーク」を共催するなど、その普及・啓発に努めました。一方で、「えんがわファンド」自体の認知度を向上させることは、引き続き、センターにとって重要な課題です。
- ④「居場所やサードプレイスの周知と推進」については、運営委員による「居場所探訪プロジェクト」を始め、広報誌「えんがわだより」への特集記事の掲載などを通じて、その必要性や価値を周知することができました。
- ⑤「災害時に備えた支え合いの醸成」については、「災害ボランティア養成講座」を実施し、災害時要配慮者支援についての学びの機会を提供しました。今後も、いざという時に備えるためにも、平時における市民のつながりを支援していく必要があります。

II 個別事業

第1 センター及びボランティアコーナー（ブランチ）の運営

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	市民活動支援センターの受託・運営			市	○

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	ボランティア活動推進	会寄雑 基	市		○

1 市民活動支援センター運営委員会の開催

結果の概要

- 令和5年度より、第11期運営委員会を18人の委員でスタートした。
- 令和4年度に策定した「2023～2027 中長期運営方針」に沿いながら、運営委員会の議論を進めた。
- 各コーナーとの連携強化のためのコーナーの職員が交代で運営委員会に参加し、運営委員と顔の見える関係づくりを進めた。

実績等

(1) 市民活動支援センター運営委員会 任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日

氏名	選出区分	主な活動、所属等
水田 征吾（委員長）	ボランティア	個人ボランティア
横山 真理（副委員長）	市民活動団体	こんぺいとう子育てひろば
原島 秀一（副委員長）	企業・労働組合	税理士事務所
安藤 雄太	学識経験者	
村上 むつ子	市民活動団体	Global 調布！
平澤 和哉	市民活動団体	NPO 法人ちょうふこどもネット
石井 洋子	市民公募	
阿部 秀樹	市民公募	
浜本 雅樹	市民公募	
石正 房江	市民公募	
加藤 和歌子	ボランティア	個人ボランティア
毛利 勝	ボランティア	個人ボランティア
ニンファジャヤマーンナ	ボランティア	個人ボランティア
小松 明日香	ボランティア	個人ボランティア
佐竹 澄子	関係機関	東京慈恵会医科大学（医学部看護学科講師）
熊谷 紀良	関係機関	東京ボランティア・市民活動センター
松谷 知彦	行政関係	調布市生活文化スポーツ部協働推進課長補佐
田村 敦史	社協関係	市民活動支援センター長

(2) 令和5年度 市民活動支援センター運営委員会開催状況

第1回	4月21日(金)	<p>【審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長の選任について ・社会福祉法人調布市社会福祉協議会 理事候補者の推薦について ・令和4年度市民活動支援センター事業報告(案)について ・令和4年度市民活動支援センター資金収支決算報告(案)について <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度えんがわファンドについて
第2回	5月20日(土)	<p>【審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告(案)の承認 ・令和4年度決算書(案)の承認 <p>【共有事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動支援センターの位置づけ及び前期の取組について ・中長期運営方針について <p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会で今期取り組むテーマの協議 <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所探訪プロジェクトについて
第3回	6月21日(水)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今期の運営委員会で取り組むテーマについて <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度えんがわファンド選考について ・調布サマーボランティア2023について
第4回	7月21日(金)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今期の運営委員会で取り組むテーマについて ・えんがわフェスタの開催時期と内容について ・えんがわフェスタの目的と過去の企画の内容 <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調布サマーボランティア2023について ・ちょうふチャリティーウォークについて
第5回	9月15日(金)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えんがわフェスタについて ・運営委員会の今期の取組みについて <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうふチャリティーウォークについて ・第10回調布まち活フェスタについて ・居場所探訪プロジェクトについて
第6回	10月21日(土)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えんがわフェスタについて ・運営委員会の今期の取組みについて <p>【報告事項】</p>

第2部 ボランティア・市民活動の推進

		<ul style="list-style-type: none"> ・調布サマーボランティアの結果について ・おはなしほっとカフェの開催結果について ・ちょうふチャリティーウォークについて ・拡大センター長会議の開催結果について ・第10回調布まち活フェスタについて
第7回	11月18日(土)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の今期の取組みについて ・えんがわフェスタについて <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうふチャリティーウォークとえんがわファンドについて ・災害ボランティア養成講座について ・第10回調布まち活フェスタについて
第8回	12月19日(火)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えんがわフェスタについて ・運営委員会の今期の取組みについて <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期から継続中の取組みについて ・居場所探訪プロジェクト(講演会の開催) ・おはなしほっとカフェ ・第10回調布まち活フェスタについて ・今後のセンター主催事業について
第9回	1月13日(土)	<p>【承認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度予算案について <p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えんがわフェスタについて ・今期の取組みについて <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第10回調布まち活フェスタについて ・災害ボランティア養成講座について
第10回	2月16日(水)	<p>【承認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度事業計画案について <p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えんがわフェスタ振り返り ・各グループの取組みについて ・えんがわファンドについて <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度予算について ・災害ボランティア養成講座について
第11回	3月19日(火)	<p>【承認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えんがわファンド選考委員について <p>【協議事項】</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの取組みの振り返り 【報告事項】 ・居場所探訪PJについて ・災害ボランティア養成講座について ・第10回まち活フェスタの実施報告について
--	--	---

分析・課題

- 第11期運営委員会では、より開かれたセンター運営を目指し、会議の開催日程や時間帯を工夫した。結果、運営委員の出席率が高まり、活発な議論を行うことができた。
- 令和6年度は第11期の最終年度となるため、令和5年度の会議で出た様々な意見やアイデアを中長期運営方針に沿って、どのように具体化していくかが重要となる。会議の進行や実現方法についてしっかりと検討していきたい。

2 市民活動支援センター利用者会議の開催

結果の概要

- 倉庫利用の更新に合わせて、利用者会議を実施した。
- 壁面展示やギャラリーで展示を行なった団体を始め、はばたき利用団体に声をかけ、交流会を行った。

分析・課題

- はばたきやボランティア活動室を利用している団体も、他団体がどのような活動を行っているか、どのような人が所属しているのかについて、情報を必要としている様子が伺えた。団体同士の交流を後押しすることで、良い効果が生まれるようつながりを支援していく必要がある。

3 市民活動支援センターサポーター会員制度

結果の概要

- 地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で助成する「えんがわファンド」の原資として活用した。
- 令和5年度は、サポーター会員加入・継続について、3年前の会員まで広げて案内した。会員数はほぼ横ばいであったが、複数口のご寄付が増え、寄付金の合計額は増加した。

実績等

加入口数	令和5年度	令和4年度
一口／3,000円	86口	64口
	259,000円	192,000円

サポーター会員数	令和5年度 実数(人)	令和4年度 実数(人)
団体	38	38

新規・継続内訳	令和5年度 実数(人)	令和4年度 実数(人)
新規サポーター	2	1
継続サポーター	57	54
匿名	0	0
合計	59	55

個人	21	17
匿名	0	0

分析・課題

- 会員数はほぼ横ばいであった。
- 複数口の申込みが増えた。10口が2件、3口が3件、2口が3件、1万円の寄付が1件。複数口の申込みが数年続いている団体もある。
- 令和5年度の利用者アンケート(令和6年3月実施)の結果によると、サポーター会員制度について、130人中108人が「知らない」、えんがわファンドについては130人中91人が「知らない」と回答している。まずは、定期的に市民活動支援センターを利用している市民に、サポーター会員制度・えんがわファンドについて伝えていく努力・工夫をしていく必要がある。
- 本日の予約案内に、活動内容を示すイラストを付けて、親しみやすい工夫をしている。市内の活動団体やいろいろな活動がある事を知るきっかけとなると良い。同時に、今の時代にあった広報の工夫が必要。

4 市民交流事業の実施

(1) えんがわフェスタ 2023 の開催

結果の概要

- 市民活動支援センター運営委員会で協議し、イベントを実施した。
- 調布市国際交流協会との連携により、多彩なイベント協力者と参加者を集めることができた。
- 言語変換アプリやウィスパリング対応、グループ分けを工夫したことにより、国籍に関わらず楽しむことができるイベントになった。参加者アンケートの結果も非常に満足度が高かった。

実績等

名 称	えんがわフェスタ 2023 Better Together～調布で世界とつながろう～		
目 的	調布で生活している外国籍の方々について学び、交流を通して理解を深める。		
日 時	令和6年1月21日(日) 13時～16時		
会 場	市民プラザあくろす 3階ホール		
参加者数	約50人		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・第一部 (1)「調布に暮らす外国ルーツの住民について学ぶ」 (2)「調布の日本のビックリ!?あるある話」 ・リフレッシュメントタイム：各国のデザートを試食しながらのクイズ大会。 ・第二部 (1)「調布のまちがこうなったらいいな」 (2)「あなたもできる地域活動」 		
講 師	<ul style="list-style-type: none"> ・島田 早苗 氏(調布市国際交流協会) ・外国籍スピーカー 		
主 催	市民活動支援センター	企画運営	市民活動支援センター運営委員会

分析・課題

- 食文化を通じてお互いを知り合うという仕掛けを考え、食べたデザートがどこの国のデザートか当てるクイズ企画は、興味や関心を深めるだけでなく、交流の促進にもなり、非常に良い取組だった。
- フェスタを通じ、孤立しやすかったり孤立していたりする外国にルーツを持つ方へ情報を届けるためには、外国にルーツを持つ方が多く繋がっているネットワークのキーマンと支援機関や相談窓口が繋がるのが重要だと分かった。日頃の活動の中で、キーマンとの繋がりを増やしていく必要がある。

(2) 第10回調布まち活フェスタ

結果の概要

- 市民活動団体や地域で活動している個人ボランティアのほか、公募で関心を持った方に、実行委員会へ参画いただき、延べ30人で企画を行った。
- 市報等で広く出展団体を募集した結果、令和4年度から3団体増え32団体が参加した。
- 開催に向けて、準備会を1回、実行委員会を8回、出展者会議を1回開催した。
- 10周年の記念回として工夫を凝らした企画を行い、多くの市民に楽しみながら様々な活動を体験してもらうことができた。

実績等 <第10回調布まち活フェスタ・当日>

開催日	令和6年3月10日(日)10時~15時
会場	調布市市民プラザあくろす及び国領駅前広場
来場者数	約1,600人
参加団体数	32団体
後援	調布市商工会、公益社団法人調布青年会議所、国領商盛会
協賛企業	株式会社グローバル設計、有限会社まるよし、神金自転車商会、株式会社ウィード、ハーバー、株式会社山田屋本店、相田文具店、国領商盛会、有限会社管理人代行サービス、狩野タイル工業株式会社、金子スポーツ振興株式会社、NPO法人ちょうふこどもネット、リカー&フーズやまぐち、特定非営利活動法人調布市地域情報コンソーシアム、旭ハウジング株式会社、株式会社城山ハウジング、Vocal&Piano 沼田、林建設株式会社、株式会社サカイ・ヘルスケア 三鷹店 ※順不同
実行委員	22人(延べ30人)
主催	第10回調布まち活フェスタ実行委員会
共催	調布市・調布社協(市民活動支援センター)
目的	多くの市民に多彩な市民活動に触れてもらう機会とするとともに、市民活動団体同士の交流の場として、市民活動の活性化を目的とする。
実行委員会	8回開催
出展者会議	1回開催

分析・課題

- コロナ禍の影響でイベントを縮小していたため、実行委員会の人数も減少傾向となっていたが、公募により多くの新しい委員の参画があり、非常に活性化できた。

- 実行委員会企画として行った団体交流のための名刺交換や活動を知ってもらうためのランウェイが好評で、例年以上に多様なつながりや関わりを創出することができた。
- 10周年という節目を成功させることができた一方で、今後どのような形で実施していくと良いかは要検討事項となっているため、継続的な協議を行っていく必要がある。

5 えんがわ文庫の運用

結果の概要

- 令和3年11月1日のオープンから2周年を迎え、少しずつ認知度が向上してきている。また、えんがわ文庫の利用を目的にした来館者も増えている。
- 棚主の活性化を目的に、既存の棚主の継続手続きと合わせ、新規の棚主募集を行った。生活状況の変化などを理由に本棚を返却した棚主もいたが、結果的に棚主は28人になり、当初から2人増加した。

実績等

- 調布サマーボランティアで学生2人を受入れた。夏休みの期間限定棚主体験に加え、他の棚主との交流を図った。
- えんがわ文庫棚主交流会を月1回程度開催し、えんがわ文庫の活性化や棚主の交流促進について意見を出し合った。
- 棚主主催のイベントを開催し、えんがわ文庫を拠点とした地域住民との交流に取り組んだ。

タイトル	実施回数	開催日時
親子の英語絵本おはなし会	9回	4月16日(日)、7月1日(土)、8月5日(土)、 9月9日(土)、11月11日(土)、12月9日(土)、 1月20日(土)、2月17日(土)、3月16日(土)
絵本いっぱい楽しみいっぱい	7回	4月24日(月)、5月22日(月)、6月3日(土)、 6月21日(水)、11月23日(木)、1月22日(月)、 3月10日(日)
本を持って集まろう	3回	9月30日(土)、1月13日(土)、3月10日(日)

分析・課題

- 棚主交流会の継続的な開催や棚主交流ノート、SNSの活用により、棚主同士でアイデアを出し合い、新たな取組の提案を行うなど、えんがわ文庫に主体的に関わる棚主が増えてきている。
ただ、その一方で消極的な棚主が固定化されてきてしまっているため、対応について検討する必要がある。

6 ボランティアコーナー（ランチ）の運営

結果の概要

- 身近な地域に密着した相談・活動の拠点としてコーナーを設置している。
- 地域の方々によって運営されている野ヶ谷の郷を含め7拠点のランチを運営しており、小島町

コーナー（月～金）、西部コーナー、染地コーナー（火～土）の3拠点が週5日開所、菊野台コーナー、富士見コーナー、緑ヶ丘コーナー、野ヶ谷の郷の4拠点が週3日（火、木、土）開所となっている。

(1) 小島町コーナー

実績等

①小島町コーナーの運営

項目	回数	参加人数	内容
ボランティア活動室の貸出	随時		ボランティア団体の活動拠点として貸し出している。また、活動に必要な物品の保管場所として棚、メールボックスも貸し出している。
ボランティア保険の受付、取りまとめ	随時		ボランティア保険への加入促進の呼びかけと、加入手続きの事務を取り扱った。ボランティア保険は延べ3,998人、行事保険は延べ8,613人が加入。
使用済み切手等販売、売上報告の取りまとめ	1回/年		使用済みの切手やカード類を回収し、個人または各ボランティア団体に整理してもらい、業者買い取ってもらう。それ以外にも、外国コイン、書き損じはがきの回収も行っている。その売り上げは、「えんがわファンド」の原資となり、令和5年度は57,360円を売り上げた。
無線LANスポット運営	随時	60人	総合福祉センター1階2階の全域で利用できるよう、無線LANスポットエリアを設置している。また、あくろす2階・3階共通のWifi導入に伴いSSID(Chofu-Free-WiFi-Plus01)に無線LANを利用している。セキュリティ上、利用者は登録制にし、1年に1回パスワードを変更。
福祉機器の貸出	5回/年	300人 (延べ)	研修等のために、車いす、高齢者疑似体験セット等の福祉機器を貸出。

②主催事業

項目	回数	参加人数	内容
ボランティア活動室利用団体交流会	1回/年	13団体 16人	利用ルール説明と、定例利用日時枠の確認、棚等の希望調整を行った。4年ぶりの開催だったこともあり、団体間交流を企図した。

③団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
グリーンガーデン青樹	1回/月	約45人 /1回	毎月行われるお誕生会に、歌や演奏などを披露するボランティア団体を紹介。

アイビー	5回/年	約30人 /1回	夏に行われる納涼祭に、曜日ごとに異なる音楽、ダンス、昔話など披露するボランティア団体を紹介。
はあと・ふる・えりあ	不定期		「はあと・ふる・えりあ」の利用者が織った布について、店内で販売できる商品作成の相談があり、ボランティア団体を調整し、紹介。
エルシアホスピス仙川	不定期	約50人	6月に新施設から演奏ボランティアの紹介に関する相談があり、緑ヶ丘コーナーと連携。ミニハーブ団体を紹介し演奏会開催までを支援。
DEMAE 調布	1回/月	約20人 /1回	視覚や聴覚に障がいがあっても、映画鑑賞が楽しめるようなバリアフリー映画の体験会を、月1回開催。会場の確保などを支援。

④関係機関との連携

項目	回数	参加人数	内容
出前講座 (小中学生対象)	13回/年	1,345人 (延べ)	障がいのある方との出会いとコミュニケーション、援助のボランティア体験や障がいの模擬体験を実施。
都立高等学校における教育活動支援業務の実施	3回/年	720人 (延べ)	平成19年度から、教科「奉仕」授業の一環として、また平成28年度からは、それを発展的に統合した新教科「人間と社会」という必修修教科の授業として、出前講座を実施。
市・職員研修(タウンウォッチングセミナー)	2回/年	40人 /1回	市職員として数年目の職員を対象とした研修を支援。車いすやアイマスク装着など、疑似体験をしながら、公共施設等の利便性、安全性について確認。
三菱UFJ銀行新任研修	1回/年	47人	令和6年度採用の新任行員を対象とした「ボランティア体験」の研修先として、市内9施設の福祉施設に47名の受入れを調整。受け入れ施設には説明会を実施。
調布市総合防災訓練・防災フェア「調布であそぼーさい・まなぼーさい」	1回/年	35人	市役所前庭広場にて行われた防災フェアの体験エリアで、車いす体験コーナーを設置。市民の方に車いす体験の機会を提供。
スマホ交流会の開催	1回/月	約15人 /1回	小島町、布田近隣に在住の高齢者を中心に、災害時に困らないためにスマホ操作に慣れること、近隣住民同士の交流のために、定例で交流会を開催している。今は、CSW、SCと一緒に職員中心に毎回のメニューを決めているが、支援者が2名になったので、その支援者を中心に会を進めていけるよう支援。

⑤社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
調布市福祉まつり	1回/年		調布市福祉まつりにおいて、車いす体験ブースを出展。広く市民の方に体験の機会を提供。
下石原地区ふれあいのつどい（小地域交流事業）	1回/年	137人	小島町コーナーとして初めて担当となり参加。前日準備や当日の運営をサポート。

結果の概要

- 小島町コーナーが運営するボランティア活動室の貸出や無線LANスポットなど、ボランティア団体の活動に欠かせないものとなっている
- ボランティア活動団体の支援については日常的に行っているが、特に、令和5年度は高齢者・障がい者施設からのボランティアニーズが高かった。
- 出前講座をはじめとする福祉体験を通じて、様々な機関と連携するとともに、市民の障がい理解の促進に努めた。
- 社協内連携については、圏域に地域支え合い推進員が配置されたことにより、その連携の中で小島町コーナーとしても地域との結びつきが深まっている。

分析・課題

- 地域で開催されている、地域包括支援センターや地区協議会等が開催する会議への参加について、今後、改めて検討したい。

(2) 菊野台コーナー

実績等

①主催事業

項目	回数	参加人数	内容
第29回菊野台ボランティアまつり	1回/年	約250人	・令和元年（2019年）の開催からコロナ禍を経て、4年ぶりの開催となった。 ・時間を短縮し、飲食を提供しないなど制約のある中、新たな参加団体などもあり、楽しいまつりとなった。
ボランティア連絡会	1回/年	8人	・令和6年度「第30回菊野台ボランティアまつり」開催について話し合い、各団体が自分たちの活動を続けることで手一杯な状況のため、開催しないことが決まった。 ・まつりが終了するにあたり、今まで参加した団体、個人を対象に、ボランティア交流会を開催することが決まった。

②団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
菊野台合唱の会	1回/月	約20人 /1回	・元中学校教諭の講師を招き、女声合唱の会を9月より開催し、立ち上げ支援を行った。 ・2月より自主活動グループとなる。

③関係機関との連携

項目	回数	参加人数	内容
スマホ de サロン	2回/月	約10人 /1回	地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と連携し、相談者、ボランティア双方に心地よく、活動しやすい場となるよう支援した。
認知症予防運動と計測会	1回/年	30人	地域包括支援センター至誠しばさきと共催し、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と共に、高齢者に向けた運動プログラムの講座を開催。
ラジオ体操講習会	1回/年	25人	地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と連携し、講師を招き実施。
お薬カフェ	2回/年	約15人 /1回	・三鷹市新川中原地域包括支援センターが実施する薬剤師を招いたカフェに、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と共に参加。 ・菊野台地域福祉センター内で同様のカフェ、または講座の実施を目指す。

④社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
菊野台地区地域のつどい (小地域交流事業)	2回/年	約250人	・実行委員会で菊野台地域福祉センターを中心とした地域の変遷について、スライドトークを実施。 ・令和元年(2019年)の開催からコロナ禍を経て、4年ぶりに「菊野台地区地域のつどい」を開催。

⑤会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
地域ケア会議	1回/年	25人	地域包括支援センター至誠しばさきによる、世帯数570の「深大寺レジデンス」で行われた、集合住宅ならではの様々な問題についての話し合いに参加。
Aゾーン会議	1回/年	15人	地域包括支援センター至誠しばさきによる、民生児童委員、集合住宅管理組合委員などを対象

			にした個人情報保護についての勉強会に参加。
地域連携会議	6回/年	約8人 /1回	地域包括支援センター至誠しばさき、調布ゆうあい福祉公社、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員による情報共有会議に参加。

結果の概要

- 主催事業については、過去29回続いた「菊野台ボランティアまつり」が終了することとなった。この数年間は、実行委員会でも開催について消極的な意見があり、ボランティアが中心となって積極的に企画運営をする本来の形ではなくなっていた。
- 団体支援については、菊野台地域福祉センター内で活動する複数の団体に、地域住民が楽しみながら参加し、充実した活動が継続するように支援した。
- 社協内連携については、10月より地域支え合い推進員が配置されたことで、講座や新たな団体の立ち上げなどに取り組みやすくなった。
- 会議への参加を通じて、関係機関と地域の課題について共有することで、講座の開催や団体の立ち上げに連携して取り組むことができた。

分析・課題

- 長く続いたボランティア団体は、メンバーの高齢化が進み、活動の縮小が避けられない。新たに活動を始めた団体もあるが、団体間の連携や交流には至っていない。
- 「菊野台ボランティアまつり」が終了することを受けて、既存の「ボランティア連絡会」ではなく、新たなボランティア団体同士のつながりの場を作っていきたい。

(3) 富士見コーナー

実績等

①主催事業

項目	回数	参加人数	内容
バリアフリー映画体験会	1回/月	約13人 /1回	バリアフリー映画「こどもしょくどう」体験会を開催し、こども食堂かくしょうじ、フードバンク調布、富士見あおぞらこども食堂、フードドライブの活動紹介を実施した。
楽しく学んで、お金を守る！特殊詐欺被害防止講座&DVD上映会	1回/年	39人	特殊詐欺被害等の状況及び対処方法を知ることによって被害に遭わないためのお役立ち情報提供を実施。調布市総合防災安全課、地域包括支援センターちょうふの里が講師を務めた。

② 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
門前そば打ちクラブ富士見会	1回/月	約28人 /1回	手打ちそばを試食会員に提供。地域交流の場となっている。コロナ禍明けの安全、安心な活動について相談支援。新規会員募集に協力した。
ふふ富士見	通年		居場所で活動するボランティアや参加者の紹介、えんがわだよりでのボランティア募集記事の掲載、ボランティア保険加入手続き、寄付物品等、支援を行った。
うたごえ喫茶 in 富士見	1回/月	約25人 /1回	ピアノの演奏に合わせて唱歌、抒情歌を歌い、参加者が交流するサロン。約4年ぶりに活動再開、富士見ふれあいのつどいにも参加。スタッフとの打ち合わせ、広報、歌集作成に協力した。

③ 関係機関との連携

項目	回数	参加人数	内容
子ども食堂かくしょうじ	2回/月	約100人 /1回	地域福祉コーディネーターと連携し活動を支援。ボランティア、寄付物品の紹介、見守り等を実施。むすびえの研修動画撮影や絵本作成への情報提供。
らんまんガーデン倶楽部	1回/月	約8人 /1回	地域支え合い推進員と、地域包括支援センター ちょうふの里と連携し、高齢者を対象にした介護予防活動（園芸）を支援。立ち上げから1年が経ち、参加者も増え、交流が深まっている。
夏休みのラジオ体操	計32回	約35人 /1回	石原小学校地区協議会、健全育成石原地区委員会、石原小学校施設総合開放委員会、フードバンク調布、お米のシライ、有志が協力して実施。チラシ作成や、体操カードの紐の寄付物品提供に協力。
合同防犯パトロール	4回/年	約45人	石原小職員とPTA、石原小地域学校協働本部、調布中職員、ちょうふ子どもネット、調布学園、皐月、石原小地区協議会、富士見町自治連合会、近隣住民、調布地区防犯協会、調布市総合防災安全課、調布市協働推進課、富士見児童館、調布市社会福祉協議会、富士見コーナー、わんわんパトロール隊、ふじみパトロール隊、石原小おやじの会、民生児童委員が参加。富士見コーナーはチラシ作成に協力。
わんわんパトロール	通年		調布市総合防災安全課と連携し、ボランティア募集、広報に協力。

④社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
富士見ふれあいのつどい (小地域交流事業)	1回/年	500人	・令和5年11月18日(土)開催。4年ぶりの小地域交流事業実施に向けて、舞台発表、模擬店、総務企画の3つの分科会に分かれて地域の団体、住民と準備を進めた。 ・つどいの方向性や企画案について実行委員会前に役員会を開催し、打合せを行った。

⑤会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
西部地域ネットワーク会議	2回/年	11人 /1回	調布市西部公民館、地域包括支援センターちょうふの里、調布ゆうあい福祉公社、民生児童委員、調布市社会福祉協議会による事業状況、地域活動報告。

結果の概要

- 富士見町コーナーが主催した講座について、取り上げたテーマの啓発促進に役立つと参加者、講師から好評であった。令和6年度以降も、市や近隣団体と連携して講座を実施したい。
- 団体支援については、新規団体や、4年ぶりに活動再開した団体の支援を実施。今後も継続したい。
- 関係機関との連携については、学校や団体との連携を通じ、富士見コーナーの地域での存在感を高めることができた。
- 令和5年度は石原小地区協議会には参加することができなかった。機会をみて参加できるよう調整していきたい。

分析・課題

- 富士見コーナーでは4年ぶりにイベントが再開、地域団体や学校との連携を深めることができた。令和6年度は、CAPSや近隣の明治大学体育会などと更なる連携を図りながら、若年層のボランティア人材の発掘を試みたい。また、NPO調布ハンディキャブと連携し、中高年層、高齢層の活動者を増やしたい。

(4) 染地コーナー

実績等

①主催事業

項目	回数	参加人数	内容
ボランティアまつり染地 「染地マルシェ」	1回/年	約800人	地域で活動しているボランティア・市民活動団体を中心に地域の若者から高齢者の交流の場として28回継続している地域に根づいたおまつり。

バリアフリー映画体験会・染地	1回/月	約35人 /1回	高齢化が進み機能低下が著しい染地地域において、外出の機会とする。高齢者の居場所づくりの取組。
染地 de ラ・ラ・ラ	1回/月	約25人 /1回	一人暮らしの高齢者、高齢者世帯の方々からの「声を出したい」という要望を受けスタート。活動内容はボイストレーニングと声を出して歌うこと。
香りを楽しむ伝統文化「香道」	1回/年	15人	染地在住の若者2人の企画を支援。

②団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
シニアヨガ	1回/週	約15人 /1回	コロナで外出の機会を失った方々から「体を動かしたい」と要望があり、立ち上げを支援。
手話サークル染地	2回/月	約20人 /1回	染地在住の聴覚に障がいのある方と通訳者を中心に立ち上がった団体。交流を第一に手話を学ぶことを支援。障がい理解も深めることができた。
調布 SPV	2回/月	約5人 /1回	2019年浸水被害を受けた染地地域のアルバム写真の洗浄活動をきっかけに、全国から依頼を受けている。その活動を支援。
小さな手	2回/月	約5人 /1回	メンバーの高齢化が進み存続が危ぶまれたが、メンバーの募集とその定着を支援。
クラフトサークル	1回/月	約15人 /1回	指導者の高齢化に伴い解散するが、居場所を失くすメンバーのために新たな指導者を紹介するも、指導方法がかみ合わず解散に至った。
琴仲間染地	1回/週	23人 /1回	創立30年、メンバーの高齢化も進み世代交代をみすえ、若手育成の面で、周知・広報等々支援する。

③関係機関との連携

イベント名	回数	参加人数	内容
染地筋トレ通う会	1回/週	約20人 /1回	地域支え合い推進委員、地域包括と連携し、加齢による機能低下予防を推進した。
染地パソコン教室&スマホちょっと相談室	3回/月	6人 /1回 (予約制)	地域福祉コーディネーターとの連携により、コロナ禍で孤立する高齢者に対し、1対1で対応する相談室を立ち上げ、受付窓口として継続支援している。
調布市立杉森小学校	計28回	3人 /1回	「すぎもり地域学校協働本部」の地域コーディネーターからの依頼を受け、杉森小学校家庭科

			の授業補助員としてボランティアを紹介。
調布市立第三中学校	計 27 回	3 人 /1 回	「すぎもり地域学校協働本部」の地域コーディネーターからの依頼を受け、杉森小学校家庭科の授業補助員としてボランティアを紹介。
	1 回/年	3 年 5 クラス	認知症に対する理解を深める講座を授業で取り入れるため「すぎもり地域学校協働本部」地域コーディネーターと共に学校へ提案。
みんなのおまつり	1 回/年		染地地区協議会主催イベント。地域福祉コーディネーター・支え合い推進員と共にポッチャで参加。また、三中吹奏楽部保護者会にバザーを提案し、売上を楽器修理費用として運用した。

④社協内連携

イベント名	回数	参加人数	内容
第6次調布市地域活動計画策定委員会	1 回/月	約 22 人 /1 回	策定委員の選出、会議出席。第6次地域活動計画策定会議に出席。住民と自由な意見交換を重ねた。
高齢者会食	2 回/月		高齢者会食再開にあたり、調理ボランティア、利用者の相談窓口となった。
ふれあい給食	2 回/月		ふれあい給食再開に向け、ボランティア、利用者募集について広報協力。

⑤会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
杉森地区協議会	7 回/年	約 18 人 /1 回	会議への参加に加え、活動にも参加、協力。杉森地域での防災訓練等への参加を通じ、地域との連携を深めた。
染地地区協議会	7 回/年	約 26 人 /1 回	会議への参加に加え、活動にも参加、協力。多摩川住宅を中心にした防災訓練、防災講座・まつり等を通じ、地域との連携を深めた。
地域ケア会議	2 回/年	約 20 人 /1 回	地域包括支援センターときわぎ国領主催の地域ケア会議に出席。高齢者の地域課題について関係機関と考え、情報共有の場となっている。
みんなの部屋会議	1 回/月	約 15 人 /1 回	地域住民による居場所づくりの取組に、支え合い推進委員、地域福祉コーディネーターと共に参加。

結果の概要

○主催事業については、コロナ禍で開催できなかった「ボランティアまつり染地」を4年ぶりに「染地マルシェ」として再開することができた。実行委員会では、若者にも興味を持ってもらえるようなま

つりを目指しワークショップを重ねた。予想を上回る地域住民の方々が盛り上がった。

- 団体支援は、地域住民の要望を受けて新たに2つのサークルを立ち上げた。地域住民が自由な発想で意見交換する場であること、住民の声を反映したコーナーであることを目標に掲げて支援した。
- 関係機関との連携は、新たな機関との連携により、多くの地域資源や情報を共有することができた。
- 会議については積極的に参加することができた。会議は、地域住民の動きが具体的に見えてくる大切な場所であるため、今後も継続的に参加していきたい。

分析・課題

- コロナ禍で外出の機会を失い、仲間との交流が切れてしまった高齢者の方々が、改めてその大切さに気づき、染地コーナーを訪ね、活動団体やイベント参加のきっかけを探している。引き続き丁寧に紹介していきたい。
- ボランティア団体の高齢化が著しい中、活動を継続するための相談が多くなってきている。団体の想いに寄り添いながら世代交代を進めていきたい。

(5) 緑ヶ丘コーナー

実績等

①主催事業

項目	回数	参加人数	内容
緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどい	1回/年	約450人	令和5年11月26日(日)開催。コロナ禍前の形態に戻し、出店、舞台発表、バザー展示など行った。地域の子ども・緑ヶ丘小PTA・八中PTAなどの参加もあり、世代を超えたまつりとして活気が戻った。
バリアフリー映画体験会	1回/月	約35人 /1回	高齢化が進み機能低下が著しい緑ヶ丘地域において外出の機会とする。高齢者の居場所づくりの取組。

②団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
おしゃべりサロン	1回/月	約25人 /1回	毎月第2火曜日に開催。令和5年度より代表が交代したが、奇数月の開催に加えて偶数月も開催。偶数月では歌をうたう催しが始まった。事前準備やチラシ作成、また、令和6年度の方向性について、話し合いを行った。
切手すみれ	1回/週	約5人 /1回	毎週土曜日に開催。令和4年度からの切手の仕分けについての変更点を伝えながら、作業を一緒に行う等、丁寧な関わりを続けている。
エルシアホスピス仙川	1回/月		施設の生活相談員より、音楽関係のボランティア紹介依頼があり、小島町コーナーを介して

			「ハーブかなで」を紹介。
--	--	--	--------------

③関係機関との連携

イベント名	回数	参加人数	内容
仙川オレンジカフェ	1回/月	約25人 /1回	つつじヶ丘地域包括支援センターと連携して団体を支援。開催内容や、当日運営の支援、振り返りや今後の活動内容の検討などを行った。

④会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
地域ケア会議	12回/年	約10人 /1回	地域包括支援センターつつじヶ丘・調布ゆうあい福祉公社・CSW・SC・コーナーが参加。主に高齢者関連の地域における問題・課題について情報共有した。
緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会	8回/年	約30人 /1回	運営委員の一員として参加。地域の問題・課題について共有した。

結果の概要

- 緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどいは、実行委員会を通じて、地域の諸団体と関わりを深められる機会となった。令和6年度もこうした事業を通じて、様々な人や団体とのつながりを構築していきたい。
- 団体支援については、既存のボランティア団体への支援を継続するとともに、緑ヶ丘地域に子どもの居場所を作りたいという新規の相談も受けた。
- 関係機関との連携については、会議などに積極的に参加することで、様々なことを相談し合える関係をつくることができた。

分析・課題

- 令和5年度は、ボランティア団体や地域住民はもとより関係機関、CSW・SCとの関係作りに重点を置いた。地域行事への参加・団体の支援を行なうことで、信頼関係・繋がりが構築できつつある。令和6年度はこれを継続し、地域ニーズとボランティア団体との接点を考察しながら支援に取り組みたい。
- 活動する団体メンバーの高齢化が進んでいる。一方で、新しく子育て世代からの活動希望や、学生からのボランティア相談も複数あった。児童館・小学校がそばにある立地を生かし、八中との連携も図りながら、ボランティアを通じた多世代交流を活性化させていきたい。また、白百合女子大学に開設したボランティアセンターとの新しい繋がりも作っていきたい。
- コーナーの存在を知らない方が地域にまだまだいるため、引き続き周知を進めていく必要がある。また、新しく訪れる方が相談しやすいコーナーであるよう努めていきたい。

(6) 西部コーナー

実績等

①主催事業

項目	回数	参加人数	内容
「心も体も温まる地域交流祭」	1回/年	102人	地域の方々に楽しんで元気になってもらうため、第五中学校ボランティアダンス部の生徒達の協力を得て実施。令和5年度で7回目の開催。企画、運営、進行等、生徒たち自身が行った。舞台終了後、生徒達が希望者にハンドマッサージを行った。
学童の子ども達の手話体験講座	2回/年	25人/1回	地域の手話ボランティアに指導を受け、第1、第2かみいしわら学童の子ども達に簡単な挨拶と自分の名前の表す手話を体験してもらった。希望者の7名は、秋から数回の指導を受け、年度末のお楽しみ会で手話歌を披露した。
バリアフリー映画体験会	2回/年	約35人 /1回	1月、3月に開催。多くの人に楽しんでいただくためのバリアフリー映画体験会を実施。とりわけ高齢者の外出の機会となっている。

②団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
スマホひろば	12回/年	約8人 /1回	参加者同士がお互いにスマホを教え合える関係を築く。情報難民となりがちな高齢者に災害時にスマホで情報が得られることを紹介。

③関係機関との連携

項目	回数	参加人数	内容
ふらっと喫茶	12回	約15人 /1回	「語る、学ぶ、繋がる」をテーマに青木病院認知症疾患医療センター、地域包括支援センターちようふの里、調布ゆうあい福祉公社が毎月1回共催している認知症カフェの運営に協力。
青木病院デイケア			青木病院のデイケア担当者に協力、切手整理ボランティア活動、ペットボトルキャップ回収、散歩の途中に地域センターに届ける活動を新しいデイケアプログラムとして取り入れることになった。デイケア利用者に体操を勧めたいと担当者から相談があり、ひだまりサロンの体操サロンを紹介し、参加することになった。
切手整理ボランティア			認知症により、継続してきた活動へのボランティア参加が難しくなった方に切手整理ボラン

			ティアを紹介し、見守りを続けている。
--	--	--	--------------------

④社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
西部小地域交流事業	1回/年	400人	令和5年10月15日(日)開催。感染対策を行った上で、会場を西部地域福祉センターに戻して従来通り開催。悪天候だったが多くの来場者が訪れ以前のような盛り上がりを見せた。
高齢者会食			・中止していた高齢者会食の再開に当たり、地域福祉係担当者とボランティアとの打ち合わせに参加。 ・高齢のボランティアの負担となっている会場設営を地域福祉コーディネーターの相談対象者に手伝ってもらえるよう支援した。

⑤会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
西部地域ネットワーク会議	2回	約11人 /1回	地域包括支援センターちょうふの里、西部公民館、調布ゆうあい福祉公社、自治会、民生児童委員、社会福祉協議会(地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員、富士見コーナー、西部コーナー)が参加。事業状況、地域活動報告を行っている。

結果の概要

- 主催事業のうち、「心も体も温まる地域交流祭」の参加者は、観客、第五中学校の生徒やボランティアを合わせて100人を超え、世代を超えた交流となった。令和6年度も開催を予定している。
- かみいしわら学童の手話体験では、子ども達は手話に興味を持ち、手話歌も披露できた。令和6年度も地域の手話ボランティアの協力を得て、夏休み期間に開催したい。
- バリアフリー映画体験会は、高齢者の外出の機会となった。今後1ヶ月おきに開催予定。
- 地域12か所の施設に花の寄せ植えを届けている「花の子キャラバン隊」、「おんがく広場」、「10筋体操」ひだまりサロンの活動を紹介、参加者が増えることになった。
- 西部公民館で開催している「子ども食堂たんぽぽ」活動について、対面での食事提供の再開に向けて、継続的に相談を受けた。
- 青木病院のデイケア担当者に協力し、切手整理ボランティア、ペットボトルキャップの回収活動がプログラムとして取り入れられる。デイケア利用者にひだまりサロンを紹介、参加することになり地域復帰につながっている。
- 地域福祉係、地域支え合い推進員と協力して、認知症によって活動が難しくなった方の切手整理ボランティアへの参加支援や、引きこもり等の課題を抱えた方に高齢者会食の会場設営ボランティアを紹介し、参加を支援した。自己肯定感を得られ、地域と繋がれる活動を紹介し、見守りを継続したい。

分析・課題

- かみいしわら学童と繋がり、手話や読み聞かせの地域ボランティアを紹介。地域の方々と子ども達が顔の見える関係になるように 今後も紹介できる活動を増やしていきたい。
- 認知症の方が増えている。地域福祉センターに来館された重度の方の対応が難しくなっている。

(7)野ヶ谷の郷

結果の概要

○梅の湯商店会の空き店舗を利用して、平成16年11月1日にオープンした市民活動支援センターのランチ。他のコーナーとは異なり、コーディネーターを配置せずに市民（野ヶ谷の郷運営委員会）が運営している。

【概要】

機能	①ボランティアビューロー機能 ②貸スペース機能 ③福祉ショップ機能 ④地域活動拠点機能 ⑤活動発表ギャラリー
開設日	火・木・土曜日（年末年始を除く）※ボランティアスタッフが当番で開設
貸出日	毎日（年末年始を除く）
スタッフ	42人（うち役員12人）

実績等

①総会・スタッフ交流会

日時	4月22日（土）10時00分～正午
内容	以下の議案を提案し、承認された。 ・令和4年度事業報告・決算報告・監査報告 ・令和5年度事業計画（案）・令和5年度予算（案） ・令和5年度役員（案）
参加者	出席35人

②野ヶ谷の郷運営委員会役員

代表	四家 綾子	副代表	小阪井 真樹子	会計	磯野 幸子
会計	石川 規子	会計監査	柄澤 宏子	役員	平柳 千鶴子
役員	関口 邦子	役員	白石 明康	役員	谷宮 ノリ
役員	名和 静子	役員	渡辺 智恵子	役員	黒田 鈴子

○役員会を6回開催し、運営について話し合いを行った。

③ボランティアスタッフによる独自活動

内容	開催日時
絵を描こう会	第1・第3土曜日
パッチワークの日	第4木曜日
折り紙の日	第4火曜日

お直しの日	第2・4土曜日
やってみよう！野ヶ谷の郷	開所日の16時00分～17時00分
筆記の会	第1土曜日
ちぎり絵の日	第3土曜日
ふれあいランチ	第2土曜日

分析・課題

- 10月23日（月）に「野ヶ谷の郷×梅の湯クラシックコンサート」を実施。地域の高齢者を中心とした80人以上の参加があり、秋のイベントとして定着しつつある。
- 野ヶ谷の郷開所20周年にあたり、11月6日（月）にスタッフの交流を目的とした奥多摩湖へのバスハイクを実施し、28人が参加した。
- ボランティアスタッフの高齢化を見据えた改善に取り組んでおり、積極的な声掛けを継続している。また、運営の中心となる役員の代替わりも継続的に検討している。令和6年度には、ふくしの窓を活用し、新たなボランティアスタッフの募集も予定しており、引き続き多様な世代が関わる地域の居場所を目指し、運営の強化が必要である。

第2 情報・資料の収集及び提供

1 えんがわだよりの発行

結果の概要

- ボランティア募集や市民活動に関する話題を取り上げる機関誌として発行。
- 2023年8月号よりカラー化し、隔月発行（年6回発行）とした。写真を多く掲載し、明るく、見やすい紙面を目指しレイアウトデザインを工夫した。
- 多くの方に手にしてもらおう工夫として、関連講座、事業等の参加者に配布を心掛けている。
- 特集記事の作成にあたり、職員が様々な団体の活動の現場を見学・取材することで、紙面の充実と団体との関係性の構築につながっている。

【概要】

発行目的	「市民参画による住み続けたいまちづくり、未来への希望が持てる社会の実現」を目指して、市民活動への市民の理解や参加を促進するとともに市民活動団体の活動の発展をはかる。また、記事づくりを通し新たな人々との関係を構築する。
編集方針	<ul style="list-style-type: none"> ○市民活動の情報を収集・提供し、市民活動の裾野を広げていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動などの市民活動について、分かりやすい内容と切り口で紹介し、市民への理解と参加を促進する。 ・活動者・関係者の事業に役立つ具体的な情報を提供する。 ・市民活動団体の情報発信源となる。 ○社会課題・地域社会に対して読者とともに考えていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会課題に取り組む市民活動などを通して、地域社会の現状と、将来について考えていく。 ・さまざまなネットワークを通して、地域や人との課題を掘り下げながら、地域と人のつ

	<p>ながりのあり方を考えていく。</p> <p>○市民活動支援センターの考えや方針を伝えていく。</p> <p>・センター事業の報告などを通じ、センターの取組を紹介する。</p>
発行日	隔月 15 日発行（4 月、6 月、8 月、10 月、12 月、2 月）
発行部数	毎月 1,300 部
配布先	<ul style="list-style-type: none"> ・市内公共施設、市内小・中・高等学校、市内大学 ・市民活動支援センターサポーター ・東京ボランティア・市民活動センター他都内ボランティア・市民活動センター
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特集記事（地域の市民活動団体紹介、社会課題の取組紹介など） ・ボランティア募集 ・お知らせ（地域の市民活動情報、助成金情報など） ・センターからの発信（コーディネーターの感じた事、周知したい活動紹介）

実績等

各号の特集記事の内容

号 数	内 容
4 月号 (No.198)	多世代の場所 ふふ富士見オープンしました
5 月号 (No.199)	はちみつルーム はちみつみたいに甘くて、ほっとして、元気が出る場所
6 月号 (No.200)	えんがわだより発行 200 号 記念号
8 月号 (No.201)	特集 調布市難聴者体操の会
10 月号 (No.202)	特集 トビバコ
12 月号 (No.203)	特集 生きづらわーほりプロジェクト
2 月号 (No.204)	えんがわフェスタ 2024 BetterTogether ～調布で世界とつながろう～

分析・課題

- 読者のニーズに合った情報を提供できるよう、毎月多彩な情報を掲載するようにしている。
- えんがわファンド助成団体の取組を特集し、助成団体の活動の周知を行っている。
- より多くの情報やセンターが得ていない情報も幅広く掲載するため、団体情報やボランティア情報について公募をかけることを検討している。

2 えんがわだよりオンライン（えんがわだよりブログ版）

結果の概要

- えんがわだより 201 号以降、えんがわだよりオンラインへのアップロードを停止。今後は、市民活動支援センターHP または他 SNS を活用し、情報発信していく予定。

3 市民活動支援センターホームページ運営

結果の概要

- 多くの市民が市民活動に関わるきっかけとして活用するためのホームページを運営した。
- 市民活動団体の情報の受発信（イベント予定や内容の報告、新規メンバー、ボランティア・参加者募集など）を支援すると同時に、「調布市生涯学習情報コーナー」、「ちょうふ地域コミュニティサイトちょみっと」と連動し、より多くの市民が市民活動に関わるきっかけを得る媒体として情報の共有化、ページの見易さ、使い易さを工夫している。現在 406 団体がセンターの団体ページを公開している。（他に、活動休止、廃止などの団体の事情により、ページ登録中の非公開団体が 395 団体）

実績等

- ホームページトップページのアクセス総件数は令和4年度同様となっている。一方で、トップページを経由せず、直接イベントページへアクセスした件数は、令和4年度対比約198%と大幅に増加した。

トップページのアクセス数（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R1年度	1,550	1,556	2,436	2,412	1,698	1,548
R2年度	1,312	1,774	1,949	1,764	1,903	1,549
R3年度	3,622	2,487	1,717	3,064	1,707	1,576
R4年度	1,955	1,363	1,658	1,564	1,285	1,201
R5年度	1,354	1,346	1,761	1,804	1,407	1,273
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R1年度	8,266	1,772	1,393	1,390	1,501	1,714
R2年度	1,610	1,291	1,220	1,227	1,397	2,244
R3年度	1,792	1,664	1,254	1,264	1,448	1,628
R4年度	1,306	1,213	1,176	1,209	1,223	1,289
R5年度	1,054	1,137	1,164	1,147	910	1,164

※アクセス解析で、Google アナリティクス（Web アクセス解析ツールの名称）は 30 分以内のアクセスは 1 アクセスとしてカウントしている

分析・課題

- トップページへのアクセス数は横ばいだが、イベントページへのアクセス数が令和4年度に続き増加している。これは、公式 X からのイベントページへのリンクや、ちょみっとからのリンクが増えているためと考えられる。
- トップページのバナー画像の変更をはじめ、ホームページ全体の見直しが課題となっている。特に近年新たに取り組み始めた事業の掲載ができていないため、適切な内容の掲載に取り組みたい。

4 資料コーナーの充実

より多くの市民がボランティア・市民活動に関わるきっかけを得る媒体のひとつとして役立てるため、市民活動支援センター内に資料コーナーを設置している。

結果の概要

- 令和4年度、資料コーナーのレイアウトを変更し、カテゴリ分けを明確にしたことで、立ち止まって情報に目を向ける人が増加した。引き続き見やすく分かりやすいレイアウトや鮮度の高い情報が多くなるよう工夫している。
- ボランティアやNPO関連のみならず、幅広い分野のチラシやポスターを配架、掲示したことで、多様な活動情報を提供した。

実績等

(1) チラシ等受入数内訳（令和5年4月～令和6年3月）

（人）

内容	令和5年度	令和4年度	分野	令和5年度	令和4年度
講座・講演	267	285	ボランティア・市民活動支援	195	177
イベント	121	117	福祉・保健	168	174
ボランティア募集	23	26	災害	24	28
スタディツアー・キャンプ	0	0	まちづくり・地域安全	45	42
寄付・募金	10	8	人権・国際協力・男女共同参画	64	75
団体・活動紹介	51	63	社会教育	20	24
スタッフ・メンバー募集	72	84	環境保護	28	32
助成金	40	47	文化・芸術・スポーツ	113	120
その他	62	52	子ども	78	73
計	646	682	その他	72	87
			計	832	778

(部)

体裁	令和5年度	令和4年度
チラシ	532	569
ポスター	115	132
パンフレット他	68	77
計	715	778

(2) ニュースレター受入数内訳（令和5年4月～令和6年3月）

(部)

分野	令和5年度	令和4年度
ボランティア・市民活動支援	69	75
福祉・保健	42	43
まちづくり・地域安全	14	11
人権・国際協力	7	8
環境保護	8	5

文化・芸術・スポーツ	7	8
災害	2	2
こども	6	7
その他	7	5
計	162	164

(3) 定期購読雑誌の受入数内訳

誌名	出版社	刊行頻度
ネットワーク	東京ボランティア・市民活動センター	隔月刊
ウォロ	大阪ボランティア協会	年6回
月間福祉	全国社会福祉協議会発行	月刊
ホームレスの仕事をつくり自立を 応援する「ビッグイシュー日本版」	ビッグイシュー日本発行	月2回

(4) 閲覧用図書・機関団体等報告書類の新規受入れタイトル
(件)

内容	令和5年度	令和4年度
市民活動支援、NPO 設立ガイド等	6	5
福祉関連	1	0
災害	0	1
その他	2	0
計	9	6

分析・課題

○資料コーナーに立ち止まり、しっかりと情報に目を通す人が増加しているため、常に新しく多彩な情報を集める必要があるが、活動団体への周知が行き届いていないため、資料コーナーを活用してもらえよう、継続した発信を行う必要がある。

5 多様なメディア（媒体）と連携した情報提供

結果の概要

○J-COM株式会社（CATV）、調布エフエム株式会社、地域ポータルサイト（ちょうふどっとこむ・ちよみっと）等の協力を得て、多角的な情報提供に取り組んだ。

○ふくしの窓では、毎号ボランティア情報等を「伝言板」として掲載している。

○調布市協働推進課が発行している『地域活動情報誌じよいなす』でも情報提供を行った。

○広報媒体として大きな力のある調布市報で、必要な情報提供を行っている。

○センターの公式Xを運用し、タイムリーな情報提供を行っている。令和6年3月31日現在のフォロー数は、767人となっている。

6 市民活動団体リストの発行

結果の概要

- 「令和5年・6年度市民活動団体リスト」を発行し、市内公共施設やセンター内で配架を行った。
掲載団体数は409団体。
- 調布市生涯学習情報コーナーと協力し、生涯学習情報コーナー発行のサークルガイドブックを配布するとともに、市民活動団体リストの配布にも協力が得られた。

第3 ボランティア・NPO・市民活動団体、個人の活動支援

1 スペース・設備の貸出し

結果の概要

- 市民活動団体の会議、作業、打ち合わせなど、様々な目的に応じてスペースの貸出しを行った。

実績等

- (1) 市民活動支援センター（国領）来館者及びはばたき利用状況

①来館者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館者数	7,246	2,691	2,860	2,987	2,793	2,996	3,240	3,260	3,007	2,968	3,038	4,365
一日平均	250	90	99	100	96	103	108	112	111	110	113	146
前年同月比	309%	99%	47%	40%	119%	108%	115%	118%	122%	121%	110%	170%

※令和5年4月調布市市議会議員選挙期日前投票期間

4月18日（火）～4月22日（土）5日間

②活動スペースはばたき・OAコーナー利用者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者	1,873	2,167	2,348	2,430	2,298	2,505	2,651	2,714	2,512	2,553	2,600	2,442
一日平均	65	72	81	81	79	86	88	94	93	95	96	81
前年同月比	104%	110%	114%	110%	130%	121%	127%	126%	137%	131%	120%	125%

③年間来館者・利用者数総計と利用内訳

【総利用者数・相談件数】

	令和4年度	令和5年度	対前年度比
来館者数(人)	39,563	41,451	105%
利用者数(人)	24,043	29,093	121%
相談件数(件)	719	925	129%

【利用者数内訳】

	令和4年度	令和5年度	対前年度比
活動、打ち合わせ、相談など	14,192人	16,518人	116%
パソコン利用	2,525人	2,374人	94%
学習	7,071人	9,928人	140%
印刷機	255人	273人	107%
合計	24,043人	29,093人	121%

	令和4年度	令和5年度	対前年度比
展示（壁面）	13件	8件	62%
展示（えんがわギャラリー）	13件	15件	115%
合計	26件	23件	88%

分析・課題

- 活動スペース「はばたき」は、団体・個人とも調布市内だけでなく、近隣他市からの利用者も多い。駅からのアクセスも良く、利便性が高いようだ。令和5年6月からフリースペースはばたきのレイアウトを変更し、更に多くの方が利用できるよう配慮した。
- パソコンコーナーについては、市民活動・ボランティア活動の支援という本来の目的以外の活用が多い。パソコン印刷については、他の利用者との混入を防止する対策を行った。
- 令和4年度から設けた「えんがわギャラリー」スペースは、センターやランチで活動している団体の発表や、つながり作りを目的としている。コンパクトなスペースだが、センター内の交流場所として認知され、賑わいがあった。展示については、期間中の休館日や期日前投票期間など、しっかり考慮する必要がある。壁面展示についても、希望者が多かった。
- ちょみつの周知は行っているが、実際の利用が促進できていないため、普及啓発に努める。

(2) ボランティアコーナー（ランチ）来所者数

拠 点	来所者数	
	人数	一日平均
小島町コーナー(週5日)	*ボランティア活動室利用者数 3,618人	7.8人
菊野台コーナー(週3日)	2,008人	13.6人
富士見コーナー(週3日)	3,905人	26.9人
染地コーナー(週5日)	8,548人	34.3人
緑ヶ丘コーナー(週3日)	2,402人	16.1人
西部コーナー(週5日)	2,040人	8.5人
合 計	22,521人	17.8人

(3) ロッカー、メールボックス、倉庫2スペースの貸し出し（国領）

結果の概要

- センター内に設置しているロッカー、メールボックス、倉庫2の空きスペースを希望する市民活動団体に貸出を行っている。
- ロッカーの利用率が高い一方で、メールボックスは利用率が低かったため、利用されていない4台のメールボックスを処分、新たにできたスペースで資料コーナーを拡大、情報が見つけやすいよう工夫した。《利用率：ロッカー 93/108 メールBOX 39/72》
- 倉庫2スペースは、13区画の全てが利用されている。

実績等

内 容	令和5年度	令和4年度
ロッカー利用団体	90 団体	92 団体
メールボックス利用団体	39 団体	35 団体
倉庫2 空きスペース利用団体	15 団体	16 団体

分析・課題

- 年に1回の更新手続き、日々の鍵の貸出しなど、職員と団体が話をする良い機会となっている。引き続き、こうした小さな機会を大切にしていきたい。
- 利用者アンケート(令和6年3月実施)の回答にも、センターが利用しやすい理由として、ロッカー・メールボックスを130人中15人(複数回答可)があげている。
- ロッカーの鍵を借り、本日の予約案内を確認し、ロッカーへ、そして活動スペースへ、と動線を整理し利用のしやすさの向上に努めた。
- 倉庫2スペースについて、申請希望のあった団体が4月20日(木)の抽選会に参加し、16団体が利用申請した。(新規希望団体はなく、抽選は行われなかった)

2 電話対応代行サービス（国領）

結果の概要

- 市民活動団体が実施する活動やイベント・講座等に関する問い合わせ・受付の支援サービスとして、電話対応代行サービスを実施した。
- サービスの内容・ながれについて改めてまとめ、館内に掲示した。

実績等

利用料金	一件につき、月額1,000円（サポーター会員は800円）	
利用件数	令和5年度：延べ28件（6団体）	令和4年度：延べ29件（5団体）
サービス内容	行事・講座・講演会等への内容照会および参加申込受付代行・団体の活動に関する問合せへの応答代行	

分析・課題

○長年続けて本サービスを利用している団体に対しては、それぞれの状況を丁寧に聞き取り、これからの講座・公演等の参加申込の受付方法について共に考えていく必要がある。

3 印刷機の設置・運用

結果の概要

○市民活動団体のイベントチラシや会議資料等、大量の印刷物を安価に印刷できるよう、利用講習修了者であれば誰でも活用できるリソグラフ式印刷機を設置している。利用料は、マスター1枚につき50円、印刷枚数500枚につき100円の費用徴収を行っている。

実績等

利用実績	令和5年度	令和4年度
印刷機利用件数	151件	139件
印刷機利用者数	257人	255人
印刷講習受講人数（新規利用者）	11人	10人

分析・課題

○令和4年度対比で利用件数も利用者数もほぼ変化がない状況。チラシなどの紙媒体の印刷は、一定のニーズが変わらずあると言える。

4 市民活動支援に関する講座・相談会

結果の概要

- 「えんがわカフェ」は、運営委員をはじめ市民の協力を得て実施した。
- 「おはなしほっとカフェ」の参加をきっかけに、多胎児のサークル、ワーキングママのお話会、子育て中のパパが電車をテーマに交流するイベントなど、さまざまな活動が立ち上がった。
- 子どもと一緒に市民活動支援センターに来館するきっかけ作りとなっている。

実績等

プログラム名	回数	参加者数（延べ）	主催者
えんがわカフェ ワーママのちょっと話そう会	12回	44人	矢田 由美子 氏
えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」	2回	17人	横山 真理 氏

分析・課題

○令和4年度に引き続き、これまで利用の少なかった子育て世代にセンターを知ってもらい、地域参画のきっかけづくりを行うことを目的に「おはなしほっとカフェ」をはじめ、多くの企画を実

施し、新しいつながりやパートナーシップを強化するきっかけづくりを行った。

○「ワーママのちょっと話そう会」は毎月、定例開催を行っている。

○他市の取組の見学や、意見交換会等に参加し、活発な情報交換とネットワークづくりに努めている。

5 不要になった入れ歯、使用済み切手・カード類、書き損じはがき、外国コイン類の回収

結果の概要

○使用済み切手、カード類の回収は、市役所、地域福祉センター、郵便局等に回収箱を設置。その他、企業、老人クラブ、幼稚園、小学校、市民からの寄付も募った。

○回収する物を示すチラシを作成する事に加え、毎年の売上げ報告も掲載している。市民活動を応援する「えんがわファンド」の原資として、活用していることを周知した。

実績等

種 類	売上金額（円）	換 金 日
通常切手 記念切手類	¥37,000	令和5年10月17日
書き損じはがき	¥7,760	
使用済みカード類	¥600	
外国コイン	¥10,000	
その他	¥2,000	
計	¥57,360	

6 市民活動助成事業「えんがわファンド」の実施

結果の概要

○地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で助成する事業である。（平成18年度より実施）

○幅広い分野のボランティア・市民活動や児童・生徒の体験活動・地域活動を支援すること、また本助成事業を通して、団体同士、あるいはセンターと団体が相互に交流し、協力しあう関係を構築することを目的に実施した。

○市民ファンドとして、市民や企業からいただいた寄付やサポーター会費、ちょうふチャリティーウォーク参加費、使用済み切手・カードの販売、入れ歯のリサイクルによる益金等、様々な資金を活用して運用した。

実績等

(1) えんがわファンド選考委員会

① 選考委員会の開催状況

開催日	5月22日(月) 19時～21時
会場	市民プラザあくろす3階
内容	応募団体12団体を書類審査により11団体に助成決定

② えんがわファンド選考委員 ◎…選考委員長

◎水田 征吾	市民活動支援センター運営委員長
南條 勉	ちょうふチャリティーウォーク実行委員
旗野 貞夫	八王子市市民活動支援センターNP0 さぼーと 802
村上 むつ子	市民活動団体 (Global 調布!)
大槻 昌美	企業・労働組合 (非営利型株式会社 Polaris)
田村 敦史	市民活動支援センター長

(2) 助成先団体 計11団体 助成総額1,000,000円

【2023年度えんがわファンド助成先団体一覧】

No	団体名	助成額(円)	助成内容
1	LIGHT HOUSE	100,000	インクルーシブ社会への意識や理解を広めるための調布ウィンメルブックのイラスト製作費。
2	まごのて	35,970	多世代交流の活発化、地域活動の担い手「てつだいでい隊」のチラシと活動で使用する自転車購入費。
3	特定非営利活動法人 Smile up	80,000	傾聴を広げるための社会貢献活動として、映画上映会を開催するための映画レンタル費用。
4	はちみつルーム	100,000	孤立しがちな未就園親子や不登校、障がい者など、居場所を得にくい人が世代を超えて出会い、安心して交流するための場づくりに必要な会場費、活動費、消耗品費。
5	調布市難聴者体操の会	100,000	聴覚に障害がある人も楽しめる体操の場づくりのための要約筆記謝礼、講師謝礼。
6	一般社団法人えねこや	100,000	市民が脱炭素社会に貢献する意識を持ち、できることから実践していくことを目的とした啓発を行うための映画上映会の講師謝礼と移動式えねこやの修理費。
7	センイチブックス	100,000	謎解きイベントを通じて地域への愛着を深める、せんがわ謎解きガイドブックのデザイン費と印刷製本費。
8	地域環境科学研究所	100,000	野川の水環境について、過去と現在の水質の変化を調査し、環境保全の方向性を示すための水質調査器具、水質調査キット、採水・分析用ボトルの費用。

9	フットの会	99,000	足からの健康、正しい靴の履き方や選び方を周知するための団体紹介用広報動画の作成費用。
10	生きづらわーほりプロジェクト	85,030	生きづらさを抱える人の語りの場「ちょうふのこやど」の運営および、イベント（ハートtoハートちょうふ懇談会）開催のための会議費、会場費、印刷製本費、消耗品費、謝礼。
11	minglelingo(みんぐるりんご)	100,000	調布の子どもたちが先進的なアートやテクノロジーに触れ、ソーシャルインクルーシブの取組に貢献する地域の開かれた居場所運営のための家賃(一部)。
	合 計	1,000,000	

(3) 財源（寄付金等）

実績等

令和5年度に「えんがわファンド」へいただいた寄付金等は以下のとおり。

提供者・概要 ※敬称略	令和5年度	令和4年度
サポーター会費	259,000円	192,000円
ちょうふチャリティーウォーク実行委員会	214,314円	206,537円
企業訪問（市民活動支援センター運営委員会）	0円	0円
指定寄附	168,305円	228,477円
リサイクル益金 （使用済み切手・カード・外国コイン・入れ歯）	57,360円	356,823円
えんがわカフェ	0円	0円
市民活動支援センター募金箱	35,507円	0円
講演等謝金（一部）		
合計	734,486円	983,837円

分析・課題

- えんがわファンドを基盤とした団体支援の充実を図るため、助成金の交付と合わせ、継続的な相談関係を築くことが重要である。
- 令和6年度は新たに公開プレゼンテーションや団体交流会の開催を予定している。これらの取組を活用し、団体同士のつながりの醸成をはじめ、助成団体が地域に根差した活動を継続していけるよう支援を行っていく必要がある。

第4 ボランティア・NPO・市民活動コーディネート

1 相談対応、ボランティア・市民活動支援

結果の概要

○相談対応、活動支援、活動紹介等コーディネートを行い市民の主体的な活動を支援した。

実績等

(1) ボランティア団体登録状況

○情報登録団体 409 団体（市民活動団体リスト掲載数）

○小島町コーナー登録団体 134 団体

○市内を活動拠点とするボランティア団体で、調布駅周辺で活動する団体が、小島町コーナーに登録。情報登録団体と重複している団体は多い。小島町コーナー登録団体は、年間通してボランティア活動室を定期利用でき、総合福祉センターの印刷機は無料で利用が可能。定期利用団体は、活動室内の棚やメールボックスの利用も可能となっている。

(2) ボランティア活動状況

結果の概要

○保険加入者数 3,998 人（令和4年度3,634人）

○個人で活動するボランティアは登録制度をとっていない。その為、ボランティアの活動状況を把握するには、ボランティア保険の加入者数を実態に近いと考えられる。この中には、施設等で長年継続して活動されている方等、コーディネート件数に含まれないボランティアも入っている。

○1回のみでの活動、あるいはサマーボランティア等、短期且つ、限定的な活動者も加入するため、スポットで活動した方もカウントしている。ただし、必ずしも調布市での加入者が調布で活動するとは限らず、その反対の場合もある。

(3) 相談業務及びコーディネート事業

結果の概要

○令和5年度は、新型コロナウイルスによる様々な規制の緩和に伴い、多くの福祉施設からボランティアの募集希望が寄せられ、演奏披露のような活動を複数回コーディネートした。

○社協事業に関わる活動については、高齢者会食、ふれあい給食など食事提供を伴う活動が徐々に再開され、調理ボランティアはもとより利用者の募集についても広報等で協力した。

○自宅でもできるボランティア活動として、切手整理の活動（仕分けや束ね等）や、雑巾縫い等に、令和5年度も多くの方が取り組んだ。

○特別支援学校に通う子どもの送迎は、年間通して活動があった。障がい児の放課後活動「放課後等デイサービス」で、送迎車両の運行を行っていない施設に通う子どもの送迎や、朝の登校時の付き添い等、場面は様々である。また送迎は、対象は児童生徒に限らず成人の送迎も引き続き支援した。

実績等

相談件数

拠点	小島町	菊野台	富士見	染地	緑ヶ丘	西部	国領	合計
相談件数	5,793 件	222 件	459 件	2,349 件	197 件	360 件	(925 件)	9,380 件 (10,305 件)

※合計は市民活動支援センター窓口を除く

分析・課題

○障がい児・者の送迎依頼は、「放課後等デイサービス」を利用する児童生徒を学校から施設まで、デイサービス終了後、自宅までの依頼など相談があり、それに対応した。その他、特別支援学校へ通う登校時の見守り等の依頼にも対応。毎週の支援や、週に数回の支援が必要なケースもあるため、一人

の児童生徒に対し、複数名のボランティアで対応するケースも多かった。

- 調布市の場合、特別支援学校の登下校や放課後等デイサービスなど、施設への通所で、移動支援サービスが利用できない。小中学校の支援学級に通う場合も、送迎バスがない。特別支援学校の場合、高校生からは府中まで通学となる上、送迎バスの利用ができないケースも多い。そのため、家族で送迎するか、もしくはボランティアの支援に頼らざるを得ない状況が続いている。このような状況は、家族への負担を大きくしている一方で、公共機関を利用し、徒歩で通学することが障がい児の成長過程でよい刺激になるほか、同じ地域の市民に対して、障がい理解のきっかけを生む働きかけができると考えられる。
- ボランティアは、障がい児・者支援の経験が無い人がほとんどではあるが、一緒に歩き通学を見守る中で、障がい児自身が発達・成長をしていく過程を共に支え、見守る人になっていく活動である。
- 令和4年度に引き続き、各地域で高齢者のスマホ操作に関する相談が多くなっている。地域性に合わせたスマホ講座や相談を立ち上げ、継続的に実施する中で、必要最低限の情報収集や人とのつながりが維持できるよう、工夫しながら取り組む必要がある。

2 ボランティアガイダンス（ボランティア入門講座）

結果の概要

- 市民の社会参加を促し、市民活動を担う人材の発掘を目的に、ボランティア・市民活動に参加したい人や知りたいという人を対象に、ボランティアガイダンスをセンター及び各コーナーで開催した。

実績等

拠 点	開催日	参加者数	スタッフ
小島町コーナー	11月16日（木）	2人	2人
富士見コーナー	9月30日（木）	1人	1人
	3月23日（土）	2人	1人
菊野台コーナー	7月22日（土）	0人	1人
	2月17日（土）	0人	1人
染地コーナー	4月22日（土）	1人	1人
	8月30日（水）	1人	1人
緑ヶ丘コーナー	10月14日（土）	0人	1人
西部コーナー	5月19日（金）	1人	1人
	12月5日（火）	2人	1人

分析・課題

- ふくしの窓、えんがわだよりでの周知やポスターの掲示など、市民への広報に努めたが、参加者数の増加にはつながらなかった。
- 参加者に対しては、本人の希望に寄り添いながら丁寧なボランティアコーディネートを行った。イベントや子ども食堂の再開などもあり、実際のボランティア活動につながるが多かった。

第5 ボランティア・NPO・市民活動団体、企業や行政との協働

1 ちょうふチャリティーウォーク

結果の概要

- 寄付文化の醸成を目的に、平成20年の初回から数えて第15回目の実施。企画、運営は、引き続き実行委員会が担っている。
- 広報活動からハロウィンの週末に行うイベントとしてPRを行ったため、令和4年度以上に仮装をしてイベントを楽しむ参加者が増加し、盛況だった。

実績等

(1) ちょうふチャリティーウォーク 2023

開催日時	10月29日(土) 10時~16時		
コース・会場	コース(約7キロ) 調布市役所前庭(スタート) → 野村証券調布支店 → KDXビル → 深大にぎわいの里 → 深大寺 → 植物多様性センター → サレジオ調布教会 → 布多天神社 → 調布市役所前庭(ゴール)		
参加者	506人(令和4年度495人)	参加費	高校生以下 100円
スタッフ	50人		大人 500円
主催	ちょうふチャリティーウォーク実行委員会		
共催	社会福祉法人調布市社会福祉協議会		
後援	調布市、調布市教育委員会、公益社団法人調布市スポーツ協会 調布市公立学校PTA連合会		
チャリティー金額	214,314円(えんがわファンドへ)		

分析・課題

- 令和4年度の調布駅前開催から、市役所前開催となったことで、参加者数の減少を懸念していたが、令和4年度を上回る参加者が集まった。参加者アンケートを見ると、リピーターが増加し、イベントの認知度が向上していることが伺えた。
- 引参加者の満足度が非常に高く、寄付文化の醸成という目的の理解度も高まっている。
- 多くの企業や団体からの協賛金や協賛品で運営を賄うことができている一方で、実行委員がコロナ禍以前と比較して減少傾向にあるため、令和6年度は新たな実行委員メンバーの獲得が課題となっている。

2 調布市市民プラザあくろす内の連携

結果の概要

- 多様性社会男女共同参画推進センター、産業労働支援センター、指定管理者特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会と連携し、あくろす全体での取組の調整や情報共有を行った。

実績等

○「あくろす連絡会議」(月1回)に出席し、情報交換を行うとともに、必要に応じて情報交換を行った。

分析・課題

○令和5年度から指定管理者が新しい団体が変わったが、日頃から情報共有や相談ができる関係性を構築できたため、円滑な連携ができている。引き続き、より良い運営となるよう対話を行っていききたい。

3 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センターとの連携

結果の概要

○ブロック内の他地区センターと事業共催することにより、連携強化を図ると同時に、業務や経費を分担することで効率的で多彩な事業を展開することを目的として平成12年度から実施。

○令和5年度は幹事市として会議を企画・進行。共催事業は行わず、数年来課題となっているブロック社協での災害時協定締結に向け、内容の整理などを行った。

(1) 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センター担当者連絡会

実施回数	2回
参加者	小金井ボランティア・市民活動センター、府中ボランティアセンター、みたかボランティアセンター、調布市市民活動支援センター、東京ボランティア・市民活動センター、認定NPO法人難民を助ける会 [AAR JAPAN]
内容	災害時協定の検討、各センターの情報交換等

分析・課題

○2回の連絡会を実施し、ブロック社協での災害時協定の締結に向けた検討、情報共有等を行い、連携を深めることができた。

第6 人材育成、学習支援

1 出前ボランティア講座の実施

結果の概要

○小・中学校で進められている「総合的な学習の時間」、高等学校での「人間と社会」の研修等に対応した。

実績等

出前回数	19回	出前先	小学校	13回
受講生	延べ2,105人		中学校	1回
派遣スタッフ	延べ124人		高等学校	3回
開催講座数	80講座 (内訳：手話19、視覚障がい者ガイド23、点字13、車いす25)			
			関係機関	2回

分析・課題

- 令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたこともあり、出前講座に関する問い合わせ件数も増えてきたように感じる。しかし、令和4年度まで通常どおりの実施ができない期間が続いていたため、令和5年度は予算を組んでいなかった、という学校も見られた。そのため、令和5年度の実施を見送ったり、コロナ禍と同じように、教員が体験の研修を受け、子どもたちに指導する方法を選択したりする学校もあった。
- コロナ禍前に比べると、その実績は半数にとどまっている。ただ、小学校20校のうち、半数以上からの依頼や相談は受けているので、令和6年度以降、実績数が増えていくことを期待したい。

2 調布サマーボランティア 2023

結果の概要

- ボランティア体験プログラムを中心とした42の体験プログラムを実施した。
- 予定していた定員を超える申込、問い合わせがあったため、体験プログラムを追加した。
- ガイダンス用動画を作成し、参加者全員に事前面談と動画視聴によるガイダンスを実施した。
- ボランティア活動当日には職員が活動先を訪問し、振り返りに同席してフォローアップを行った。
- 参加者は、自身の活動の振り返りとしてGoogleフォームで活動報告を提出。活動先へのフィードバックとした。
- 調布サマーボランティア活動報告BOOKを作成し、体験者、団体・施設両者のメッセージを掲載。団体・施設は体験者からのメッセージを通じて体験者の想いを知ることができ、体験者は自身の活動を振り返る機会となった。

実績等

申し込み期間	令和5年6月24日（土）～7月8日（土）
体験期間	令和5年8月1日（火）～8月31日（木）
参加者人数	249人（男性42人、女性207人）
属性内訳	中学生：75人 高校生：125人 大学生（短大含む）：31人 社会人：17人
協力団体内訳 （寄付受付を含む）	高齢者関係：5団体 障がい児・者関係：11団体 子ども関係：14団体 その他：16団体

分析・課題

- 感染症対策を行いながら実施したが、体験期間の新型コロナウイルスの流行が拡大したこともあり、罹患のため活動に参加できない、または振替を行なった参加者がいた。
- これまで参加のなかった学校からの参加申込みがあった。
- 活動した団体でボランティア活動を継続した人が複数いた。
- プログラム後のアンケートでは、ボランティア活動の前と後で、新しい気づきや変化があったと回答した人は87%、「ボランティアを継続したい」をしたいと回答した割合は84.4%であった。

- 活動報告 BOOK をすべての参加者、活動先に送付。次の活動につながるよう動機づけを行った。また、市内中学、高等学校の学校長宛へも送付し、センターの取組について周知する働きかけを行った。

第7 職員の派遣・研修 他

1 他団体等への職員派遣

結果の概要

- 関係機関との会議については、可能な限り参加して情報収集や参加者との関係作りを行った。
- 他機関から講師やスピーカーとしての依頼があった場合には積極的に派遣を行った。
- 12月15日（金）東京ボランティア・市民活動センター主催の災害ボランティアコーディネーター養成講座「地域のなかのつながりから考える、居場所発・地域の防災・減災講座」に職員1人を事例報告者として派遣。令和元年台風19号の際に地域に起こったこと、ボランティアコーディネーターが働きかけたことなどを、あらためて振り返りながら、実践報告を行った。

2 職員研修

結果の概要

- 東京ボランティア・市民活動センターをはじめ、様々な外部機関が主催する研修に参加した。
- 地域における福祉ニーズや社協内でのボランティアニーズの共有を目的に、他の課の職員を講師に招き、内部研修を複数回行った。

3 視察対応

結果の概要

- 他地域及び各種団体の見学依頼に随時対応した。
- 9月15日（金）東京ボランティア・市民活動センター主催の「区市町村ボランティア・市民活動センター運営委員およびセンター長等合同会議」（拡大センター長会議）が調布を会場に開催された。71人が参加し、センターの概要や運営委員会の様子などについて、周知することができた。

第8 調査・研究

結果の概要

- 令和4年度に続き、市民活動支援センターの利用者にアンケート調査を実施した。165部配布し130人分のアンケートを回収した。
- センターを利用しやすいと感じているコメントとして、駅から近く、メンバーが集まりやすいという意見が多数あった。また、無料で集まれる場所として、活用されていることや、多彩な団体が利用していることもあり、出会いの場としてとても意義のある場となっている。

- 学生からは「勉強に集中できる」という意見をもらった。
- コロナが落ち着き、多くの団体が活動を再開している。つながりを絶やさぬよう、工夫しながら仲間との関係を維持している団体が多い。

分析・課題

- 団体の代表が高齢なことも多く、後継者育成の必要性を感じる。
- 平均年齢の高い団体が多数を占める。若年層、中年層世代をターゲットとした啓発や新規団体発足等の取組も検討したい。
- 当面の活動に心配がない団体でも継続的な接触を図り、いつでも寄り添えるセンター運営に努めたい。

第9 災害対策・支援（重点項目）

1 調布市における災害ボランティアセンターの設置・運営

結果の概要

- 市と社協とで「災害時における調布市の対応への協力に関する基本協定」を締結し、併せて、災害ボランティアセンターの設置・運営についての具体的内容を示した「調布市災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する覚書」を交わした。

分析・課題

- 災害ボランティアセンターの設置・運営については、過去の経験を活かし、水害、地震等の自然災害発生を想定し、より具体的な準備ができるよう、調布市関係部署と協議を進める必要がある。
- 災害ボランティアセンターの運営に協力していただける市民、企業に向け、災害ボランティア養成講座等の実施を継続的に行っていく必要がある。

2 調布市災害ボランティアセンター

（旧調布市被災者支援ボランティアセンター）のサイト運営

結果の概要

- 調布市被災者支援ボランティアセンターは、東日本大震災後設置された味の素スタジアムの避難所で、ボランティアと共に避難生活をサポートすることを目的に設置され、現在もサイト上やフェイスブックで情報交換している。
- 当サイトの脆弱性への対応として、サイト運営者と協議の上、年間1回のセキュリティーチェックを実施するとともに、外部機関によるサイトの脆弱性のチェックを行った。

分析・課題

- 災害時にすぐに運用が開始できるように、最低限のサイトの維持管理は行っている。必要な問い合わせ対応等は市民活動支援センターホームページで対応する。
- サイトの脆弱性については、サイトの安全性を担保する必要性から、常に変化する課題へ対応するため、年間で複数回のチェック及び更新作業を継続的に行っていく必要があるが、予算の都合上1回の実施

となっている。

3 災害ボランティア養成講座の開催

結果の概要

○例年の連続講座ではなく、令和4年度に策定した「中長期運営方針」の内容に則しながら、地域の災害時要配慮者への意識を高める取組としてシンポジウム（「あらためて災害時要配慮者支援を考える～地域の防災・減災のための障がい理解を中心に～」）を東京ボランティア・市民活動センターと実施した。

実績等

タイトル	あらためて災害時要配慮者支援を考える～地域の防災・減災のための障がい理解を中心に～
目的	災害発生時に特に支援を必要とする「要配慮者」への支援について、市内の実践事例や当事者の声を聞き、地域の支え合いを進めていくきっかけを作る。
日時	令和6年3月23日（土）13時30分～16時
会場	市民プラザあくろす3階ホール
参加者数	43人
内容	・基調講演：「災害時における障がい者支援」（AARJapan 小田 隆子 氏） ・事例報告：水戸 和幸 氏（電気通信大学教授） 高江洲 幸男 氏（障がい当事者） 毛利 勝 氏（こくりょう・みんなの広場防災部部長）
主催	市民活動支援センター 東京ボランティア・市民活動センター

分析・課題

- 調布における災害発生時に活動できる人材の発掘・育成につなげていくためにも、様々なテーマ設定を行いながら継続的に取り組んでいく必要がある。
- 地域性に合わせたテーマ設定や、新たな興味・関心を生むテーマ設定など、検討が必要である。

4 調布市総合防災訓練への参加

結果の概要

○災害時要支援者訓練として、調布市役所前庭を活用した車いす体験訓練も実施した。

分析・課題

- 各地域で行われる「防災訓練」とも連動し、より多くの市民が参画できるための工夫が必要。
- 頻発する自然災害に備え総合防災訓練をより実践的な動きにつなげていくためにも、災害ボランティアセンター立ち上げ・運営マニュアルの作成について検討の必要がある。